

「高崎プライド」 ～心と形を整える～

令和2年5月27日（水） NO7 文責 木下 文秋

部活動をする意味

春に引き続き夏の甲子園まで中止になってしまいました。県の高校総体や全国中学校総合体育大会、その他多くのスポーツイベントが中止になっています。音楽や文化・芸術の世界でも軒並み中止となり、本当に残念です。皆さんの地区総合体育大会の開催に向けては今協議が進められているところです。先日部活動生集会が行われました。大会に向けての心構えやルールの遵守等について笠牟田先生から話がありました。ところで、皆さんはどうして部活動（社会体育も文化部も含む）をしているのでしょうか。放課後の時間を使い、土日の自由な時間を使いどうして部活動を続けているのか。それはきっと、部活動に多くの魅力を感じているからだと思います。例えばその競技の技術を習得できる。部活動を通して、礼儀やマナー、感謝の気持ちを育むことができる。心身ともに大きく成長することができる。友達もたくさん作れる。多くの感動を得ることができる。まだまだあると思いますがどれも正解です。友達の中には、部活動の実績を生かして高校に進学する人や、それを職業にする人まで出てきます。部活動には多くの財産があります。併せて、大きな価値を持つ部活動は学校生活と一心同体であることを忘れてはいけません。部活動と学校生活は別物ではないということです。部活動には教育的価値があると思うからこそ、専門外の種目であっても部顧問を務める先生ばかりです。つまり、学校生活がおろそかになる、課題をはじめ与えられたことができないでは、教育的価値が存在せず部活動は成立しないということです。ここを勘違いしてはいけません。仮に「部活動には一生懸命で優秀な生徒」がいます。しかしその生徒が「掃除を一生懸命しない。欠席も多い。きついことはやりたがらない。宿題も人のを写す。」そんな人だとしたら周りからの信頼を勝ち得るのでしょうか？部活動は学校の教育活動の一環です。人それぞれ上手に出来ることと苦手なことがあるけれども大事なことはしっかり向き合って努力すること。これが高崎プライドです。レギュラーになる、試合に勝つことも大事ですが、結果よりその過程にもとても意味があって、自分自身が入学した頃に比べ挨拶、礼儀、感謝の形が身につけば、部活動の意義は十分達成です。そして、その積み重ねが社会に出てきつと役に立つと信じてやみません。